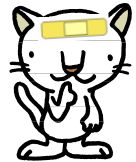


応急手当



いざという時には、焦らず、落ち着いて応急手当を行うことが大切です。飼い主さんの気持ちや慌てた行動は、動物に不安を与えたり、誤った対処は症状を悪化させることもあるので、正しい応急処置の方法を知っておきましょう。

ケガを負った



止血しながら病院へ行きましょう

- *傷口を保護し、舐めさせないようにします。
- *血が止まらない時は、傷口の上にガーゼなどをあて強く圧迫し止血をします。
- *多くの場合 1~5 分の圧迫止血で出血は止まりますが、出血がひどい時は、傷のやや心臓寄りの所をひもで縛ります。
- *傷口には、消毒液など付けないで下さい。気にして舐めたり、薬によっては、中毒の原因にもなるものもあります。
- *軽度の傷でも出血しやすい部分は、舌・肉球・鼻・耳の先端・指先などです。

誤食した



すぐ病院に連絡し指示を仰ぎましょう

- *飲み込んだ物によって処置が異なります。
- *玉ねぎやチョコレート・ニラなど中毒の原因となる食べ物は、危険なので直ちに病院に連れて行きましょう。1 時間以内なら吐かせる事ができます。
- *尖ったもの・薬品・大きい物などは、食道を傷つけたり、炎症を起こしたり、詰まって窒息する事もあるので、吐かせないほうが良い場合もあります。

ノドに物を詰まらせた



病院に連絡し、手早い処置を！

- *一気に食餌を食べたり、大きめの物を食べたり、遊んでいたおもちゃを取られそうになった時などに誤ってノドに詰まらせる事があります。
- *ノドに物が詰まってしまった時は、噛まれないように気をつけながら、口を大きく開け舌を引っ張り、手で取れるなら詰まっている異物を取り除きます。
- *手で取れない場合、猫・小型犬は両方の後ろ足を持ち上げて逆さにして10秒ほど、軽く左右に振ったり、上げ下げしたりします。抱えあげられないほどの大型犬は、横に寝かせて胸を軽く押し息を吐かせます。

感電した



早めに病院へ！

- *感電している動物に触ると飼い主さんも感電してしまう恐れがあるので、動物に触らないようにコンセントを抜くかブレーカーを落として電源を切ります。その後、呼吸をしているか、意識はあるかを確認します。
- *電気コードをかじって感電した場合は口の中をやけどしていることもあります。
- *回復したようにみえてもあとから症状があらわれる場合もあるので注意が必要です。

ヤケドした



すぐ冷やしましょう

- *ヤケドした部分をすぐに流水で冷やします。
- *嫌がる場合は、保冷剤や氷のうで冷やし、最低でも5分は冷やし続けましょう。
- *皮膚がむけていたり、水ぶくれや重いやけど、意識がない時は、すぐ病院に連絡を取り指示に従い、冷やしなからすぐに病院へ連れて行きましょう。

熱中症



命の危険あり！すぐ病院へ！

- *熱中症は、急な気温の上昇や多湿に体がついていけないためにおこります。
- *症状は、息が荒く・速い、おう吐、フラフラする、立っていることができないなどです。
- *まず、直射日光の当たらない風通しの良い涼しい場所に移動します。
- *保冷剤を濡れタオルで巻き、前足・後足の付け根に挟んで冷やします。首にも巻くと効果的です。体全体を冷やしたい時は、大きめのタオルを水で濡らし包み込むようにしてあげましょう。

けいれん発作を起こした



落ち着いてから病院へ！

- *けいれん発作の原因は、てんかんや心臓病など様々です。
- *通常、発作は数秒～3分程で治まり、単回の発作で死亡することはまずありません。
- *発作を起こした時は、何かにぶつかってケガをしないように、周囲に危険なものがあれば取り除き、取り除けない場合は安全な場所へそっと移動しましょう。
- *発作を起こしている時は、話しかけたり、体にさわるとは避けましょう。刺激することにより、かえって状態を悪化させることがあります。
- *治まった後、30分くらいは安静にして、落ち着かせましょう。
- *3～5分たっても発作が治まらない場合は、すぐ病院に連絡してください。



応急手当(救命処置)

動物が倒れてしまった時には、焦らず、落ち着いて、迅速に救命処置を行うことが大切です。誤った対処は症状を悪化させることもあるので、正しい救命処置の方法を知っておきましょう。

倒れた



すぐ病院へ！

意識がない時

横向きに寝かせて舌をつまんでひきだします。
気道を確保し空気の通り道を作ります。

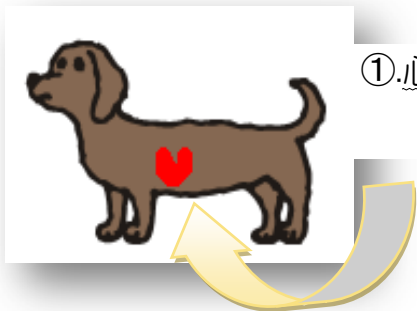
呼吸をしていない時

人工呼吸をしましょう。

- ①動物を横向きに寝かせて、口が開かないように手で押さえるようにして包み込みます。
- ②動物の鼻に、3秒間くらい強く息を吹き込みます。
- ③3秒間吹き込んだら、5秒くらい間を空けて、呼吸を取り戻すのを待ちます。
- ④呼吸が再開しなかったらもう一度人工呼吸します。
(心臓マッサージと交互に続ける)

心臓が止まっている時

心臓マッサージをしましょう。



①心臓の位置に、手を当てます。(大型犬の場合は両手、猫・小型犬や子犬の場合は片手)

- ②1分間に100～120回の速さで、一定の速さで押す。
- ③心臓マッサージを5～10回したら、人工呼吸を1回。これを繰り返す。

【注意】交通事故や落下などの場合は、内臓が損傷していたり、出血していることがあるため、注意し、応急手当をしながらすぐに病院に連れて行きましょう。